

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18201049

研究課題名（和文） 環太平洋地域における日本人の国際移動に関する学際的研究

研究課題名（英文） Interdisciplinary Studies on the International Movement of the Japanese in the Pacific Rim Areas

研究代表者

米山 裕 (YONEYAMA HIROSHI)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：10240384

研究分野：アメリカ研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：日本人移民、日系人、移動、アメリカ合衆国、カナダ、朝鮮、中国、太平洋

## 1. 研究計画の概要

本研究の対象時期は、19世紀末から20世紀前半にかけてであり、対象地域は、太平洋の周辺地域（日本、韓国、中国、東南アジア、オーストラリア、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコ、南米）および島嶼（ハワイ、旧南洋群島）である。次の3点を追求するのが本研究計画の目的である。

(1) 対象地域に移住し、さらに対象地域間・対象地域内を移動する日本人の実態、および各地における社会形成のあり方を明らかにすること。

(2) 国際移動した日本人と様々な国家との関係を明らかにすること。

(3) 太平洋をめぐる諸地域が、地域システムとして統合される過程を明らかにすること。

## 2. 研究の進捗状況

(1) の日本人が環太平洋地域において移動しつつ、いかに各地で日本人社会を形成し、現地社会と交渉しつつ社会経済的地位を確保し、自分たちの文化を維持・再編成・再生産していったのかについて、アメリカ合衆国本土、ハワイ、カナダ、朝鮮、満州、上海などの各地域についてのケーススタディを積み上げることができた。その成果を統合することによって、時代、地域による違いを押さえつつ、多様な日本人の在外体験のあり方について、明確に示すことができる見通しである。

(2) については、(1) のケーススタディを積み上げる過程で、日本の「勢力圏」と「非勢力圏」、非勢力圏でも主権国家本国と日本以外の国家の植民地の違いについて実証的に検証することができた。また、植民地については、宗主国の持ち込んだ法政治制度と現地に

における植民地的生産体制から来る必要性の両者を考察している。また、日本の勢力圏内でも、日本人の法的立場が多様であるため、より精緻な比較分析を積み上げている。

(3) の太平洋のシステム化については、日本人の国際移動研究の相対化とその中での位置づけ作業をおこなっている。西洋列強による太平洋地域の分割は19世紀に終了していたが、本国に収入をもたらす「有用」な植民地として再編成されるのは世紀末から20世紀前半にかけてであった。その時期に各地に移住・労働した日本人の役割は、当初の想定以上に大きかったことが明らかになってきた。一方、日本人は、多様な民族集団が移動する競争的環境の中で在外体験をしたのであり、一定の相対化も必要である。その意味で、本目的は、前2項と密接に関連しつつ、作業を進めることができた。

## 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

- 当初の3点の目的をすべて満たすかたちで研究が進捗していること。
- 地域ごとの各論についてはすでにまとまった成果を2点出版していること。
- ケーススタディ成果の統合については、今年度のシンポジウムでおこない、その成果を年度中に出版する予定であること。
- 単に日本人の多様な在外体験の積み上げにとどまらず、日本人の国際移動を内包した太平洋システム論の構築をおこなっていること。
- 地理学情報システム (GIS) を活用した移動研究(移民研究)のあり方について、

地理学と歴史学の協働的研究を進めていること。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2009年10月に開催する成果報告シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」では、4つのセッションを置くが、目的(1)はセッション4「移民と現地コミュニティ」で追究する。目的(2)および(3)は、セッション1(基調報告)およびセッション2「日本人の移動と太平洋を巡る問題」によって、日本人の移動が環太平洋地域における資本主義経済の浸透と同期していることの歴史的意義を明らかにしたい。さらに、セッション3「空間情報を利用した移動研究の方法論と成果」では、歴史史料と地理学GIS研究の接点を探る予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

南川文里「リトルトーキョーの再建? : 再定住期におけるコミュニティと人種間協調主義」『アメリカ研究』43号(2009年): 135-153頁、査読有。

和泉真澄 “The Japanese Canadian Movement: Migration and Activism before and after World War II.” *Amerasia Journal*, 33巻2号(2007年): 49-66頁、査読有。

米山裕「アメリカ史記述の越境化と日本人の国際移動: 移民史の枠組みの解体と再構築に向けて」『立命館文学』597号(2007年): 144-153頁、査読無。

物部ひろみ「戦間期におけるハワイ日系市民の政治思想とその活動: 米化と民族発展の交差点」『同志社アメリカ研究』42号(2006年): 113-130頁、査読有。

〔学会発表〕(計4件)

南川文里「アメリカ合衆国における日系エスニシティの類型化とその条件」日本社会学会第81回大会(東北大学、2008年11月24日)

河原典史「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみる20世紀初頭のサケ缶詰産業と日本人: 火災保険地図の予察から」歴史地理学会第51回大会(宮城大学大和キャンパス、2008年5月18日)

和泉真澄 “Re-interpreting Japanese Canadian Community Movement from Transcontinental and Transpacific Perspectives.” International American Studies Association(リスボン大学、2007年9月22日)

南川文里 “Trans/national Formation of

‘Japanese America’: Past, Present, and Beyond.” 日本アメリカ学会第41回年次大会(立教大学、2007年6月10日)

〔図書〕(計1件)

米山裕・河原典史編『日系人の経験と国際移動: 在外日本人・移民の近現代史』(人文書院、2007年)276頁。